



健康と温泉フォーラム 第35回月例研究会のご案内

- 主催 NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会
- 日時 2013年2月28日(木) 13:30~16:30 (受付13:00から)
- 会場 上野・東京文化会館4F 中会議室1
東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR上野駅公園口出て正面すぐです。
- テーマ「入湯税の戦略的な活用による温泉振興」

■ 討議内容

今月の月例研究会は日本温泉気候物理医学会名誉会員でベルツ博士系譜の東大物療内科ご出身の東威先生の温泉医学の歴史的変遷(添付資料)でしたが、日本の温泉に関する研究(医学、人文、科学等)予算が温泉産業全体の衰退の大きな原因の一つとなっているのではないかと指摘がありました。

戦後の日本は消費構造を優先し、一定方向のみに早く競って進歩してきました。そのことは厳しい自然の摂理と環境を取り込んで、進化・発展してしていく人間本来の柔軟性と価値観、

その多様性を閉じ込めることになり、結果として一人一人個性ある人間の居場所を無視した、極めてモノポリー的社会が成立しているのではないかと、特に顕著なのは、人々の健康に対する考え方と社会が考えるそれとが大きく離反しているのではないかと、

例えば、個別疾患の対処療法に重点を置く近代医療は医療費の増大の主な原因となって、国家経済の屋台骨を脅かしています。そしてそこに慢性の疾患患者や健常者の健康維持、

あるいは高齢者の介護予防に温泉の活用を真剣に検討しなければならない社会的動機と背景が浮き上がってきます。こうした外的背景とともに、内的誘発的な原因として、

国、大学や研究機関での温泉研究に予算がつかず、講座の閉鎖、研究者の育成事業の放棄など研究予算の問題が大きく影響していると思われまます。我が国の温泉研究費は推計で、約700万円(平成11年度)、

フランス(7億円)やイタリア(5億円)の1%にも満たません。温泉大国と言われている日本で、将来温泉の医学研究等基礎的な研究や地域の温泉遺産文化の研究、温泉人・人材の育成は大変重要な課題です。

大変重要な課題となります。本年はベルツ博士没100年、来年には温泉医学の国際学会(ISMH)が京都で開催されます。東先生の資料のあとデスクッションの資料ご参照いただければお分かりですが、

入湯税の戦略的な(ソフト)利活用として、基礎自治体個別では不可能な温泉医学やその他の基礎的研究に入湯税を活用できないか、一部温泉地の市長などと意見交換を始めています。又、

財団JTBの街づくり研究会でも同様の研究がなされており(温泉まちづくり研究会)、ぜひ2月の研究会に研究成果を発表いただけないか依頼中です。皆様の温泉地、自治体の取り組みと考え方をぜひご報告いただければと連絡させていただきました。

当日はぜひご参加いただき、入湯税適用の一つである観光振興の中に高齢者の温泉保養・療養客振興など温泉の戦略的な課題研究を加え論議をしたいと思っています。

よろしくご検討お願いいたします。

近年、我が国で長い歴史を持つ温泉療法が危機的な状況に落ちいつています。温泉療法の国や大学の医学的な研究機関や、研究者が相次いで、閉鎖あるいは退官となり社会の中で温泉療養が忘れ去れようとしています。一方超高齢化社会を迎えている我が国で、近代医学だけに頼るのではなく、人間の尊厳と、人人の個別な、あるいは総合的な視点でQLを第一に考え、人に優しい伝統的な、経験に基づく、いわゆる統合医療が見直されています。平成24年度の月例研究会は様々なテーマで、温泉の社会化(サ

ーマリズム)を討議してまいりました。その課題は温泉だけではなく、我々を取り巻く社会環境の現実を見直すこととなり、人々の生活と健康、あるいは生命やそのライフスタイルのありかたまで広く論議を発展させました。そして10月末の新潟県越後妻有での研究合宿、温泉里山アカデミーでは、温泉関係者の高度教育と温泉の知見の伝承システム(アカデミー)に関して、8時間に及ぶワークショップが開催されました。こうした一連の研究を通して、私たちが継続的な温泉医学や温泉療養に関する社会的基盤づくりと言う大きな課題が浮上し、温泉の個別の組織や研究の統合化、未来へ確固たる研究基盤と社会的認知事業の資金づくりなど具体的な構想も提言されました。このような大きなテーマを前に、今一度、温泉療養とはなにか、そしてその社会的、歴史的な系譜を戦後の社会の中で見つめ直し、その原点に立ち返ることが、未来への第一歩となると考え、平成25年度初頭の月例研究会には、ベルツ教授、眞鍋嘉一郎、三澤敬義、そして後の初代フォーラム会長の大島良雄、二代目会長斎藤幾久次郎と引き継がれた東京大学医学部内科物理療法学教室(物療内科)の系譜で、日本温泉気候物理学会で長くご活躍された東威先生に我が国の温泉療法の研究の歴史をご講演いただきます。振り返れば、明治以降、西洋医学の導入により、日本の伝統的温泉療法が臨床医学から忘れ去られようとした時期がありました。この危機を救ったのは、一部医学者の熱心な呼びかけでした。私達温泉人は人々に愛され、また人々に寄り添って寡黙に湧出する自然の恵を埋没させることはできないのです。



■プログラム

「温泉療養の医学的研究の歴史的経緯と未来への課題」

東 威(日本温泉気候物理医学会名誉会員、温泉療法専門医)

- 1300 受付
- 1330 コーディネーター・背景説明
- 1340 講演
- 1500 休憩
- 1515 ディスカッション
- 1630 終了

- 参加費 健康と温泉フォーラム・日本スパ振興協会・地域活性学会会員
2000円

一般の方

3000円

報道関係者・学生

無料

(当日会場受付で承ります)

- お申し込み・お問い合わせ

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mail またはFAXにてお申し込み下さい。定員先着順40名とさせていただきます。お早めにお申し込みください。

E-mail TEL&FAX 03-6804-8575

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 第34回月例会(2013年1月24日(木))に出席します。

- お名前

(複数可)

- 団体名

- 住所

- TEL

- FAX

- E-mail